

第55回「わかば」作文・図画コンクール

さいゆうしゅうしょう とっとりけんちししょうじゅうしゅうさくひん
最優秀賞 鳥取県知事賞受賞作品

「田うえ」

や ず ちゅうりつこおげひがしょうがっこう ねん
八頭町立郡家東小学校 2年

やまもと いおり
山本 衣織

わたしの家は、毎年家ぞくみんなで田うえをします。わたしは、ほいくしょのころから家ぞくといっしょに田んぼに出かけ、田うえの手つだいをしています。今年も田うえのきせつがやってきました。

はじめに、なえに玉のようなくすりをかけました。なえばこは、百こもあります。お母さんといっしょにひとつひとついねいにやりました。じょうろで水やりもしました。百こもあってたいへんだったけれど、さいごまでがんばりました。

なえのじゅんびができる、いよいよお父さんの出ばんです。田うえきになえをおいてうごかしはじめました。まっすぐ前をおいてうんてんしているお父さんは、しんけんな目をしています。なえがちゃんとうわっているか、ときどき後ろもかくにんしながらしごとをしていました。あせびっしょりになっているお父さんを見て、心の中でそっと、かっこいいよと言いました。

わたしは、空になったなえばこを、水ろにもって行ってあらいました。こしをかがめてあらうので、体じゅうがいたくなりました。でも、がんばって三十こくらいあらいました。すみっこの方の田うえも手つだいました。はだしになって田んぼに入ると、おにゅむにゅして気もちがわるかったです。うごこうと思ってもなかなか足がぬけなくて、とてもたいへんでした。でも、田んぼの中には、げんごろうやどろがえる、たにしなど生きものがたくさんいて、それを見つけながらやる田うえは、楽しかったです。

朝から夕方まで、家ぞくみんなで田うえをしました。上の田んぼや下の田んぼなど、やるところがたくさんあってたいへんだったけれど、やりおわると何だかすっきりしました。田んぼを見ると、みどり色のなえが風にゆれて、本とうにきれいでした。